

第3章

「命」の授業, 啓発講話の記録

ねらい 過去の災害の教訓に学び, 備える

- ◎過去の災害からの教訓や, 防災分野の有識者の知見から学ぶ
- ◎「命」の授業, 啓発講話の記録を共有する
- ◎自助・共助の意識と行動様式を啓発する



「命」の授業 (第一小学校)

3-1 第一小学校

◆ 「命」の授業

学校が避難所になったときに、どのように行動したらよいか

第3学年

始めに、災害時にはライフラインが停止してしまう可能性があることを子どもたちに伝えました。避難所の写真を見て、地震災害後に学校が避難所になることを知り、不便な生活を強いられる場合があることを確認しました。

その後、防災備蓄倉庫にはどんな物が入っているのかを写真で見て、避難所の中で暮らす場合、自分たちがどのように行動したらよいかを考え、発表し合いました。地域で生きる一員としての自覚をもち、みんなで助け合う大切さを知りました。



◆ 保護者・地域への啓発

避難所開設訓練「車椅子用簡易トイレ」

市職員・学校・地域

今年度の避難所開設訓練では、体育館で車椅子用の簡易トイレを組み立てました。車椅子用の簡易トイレ組み立てということで、調布市心身障害児・者 親の会の皆様、社会福祉協議会「ドルチェ」から障害担当者の皆様も参加してくださいました。

車椅子対応トイレということで、一般用組み立てトイレより大きなつくりになっているために、完成まで少し時間がかかりました。

実際に車椅子御利用の方がトイレの中に入ってみると、トイレの中がとても狭く、様々な課題が見えてきました。意見交換会でも、避難所としてどのような対応が必要になってくるのか、活発な話し合いとなりました。

3-2 第二小学校

◆ 「命」の授業

生きているってどんなこと? 一命があるからできること一

第2学年 第5・6学年

「生きているってどんなこと?」子供が生きていることを実感するのはなかなか難しいです。2年生では、聴診器で自分や友達の心臓の音を聞いて、心臓が動いている＝「生きている」を感じることを行いました。生きている、ということは、友達と遊べる、御飯を食べられる、家族と過ごせるなど、子供たちからたくさん意見が出されました。命があればたくさんことができる、命を大切にしよう、という思いをもつことができました。



また、2校時の授業に引き続き3校時に5・6年生は、ボランティア団体「ひまわりの夢企画」代表、人と防災未来センター震災語り部の荒井勤さんのお話を伺いました。実際の被災地や、その後の復興ボランティアの様子の写真スライドショーとともに、軽快なトークで聞かせる御講演は、自助・公助・共助の精神を学ぶ良い機会となりました。

◆ 保護者・地域への啓発

「命を救うために」

起震車体験・救急法(心肺蘇生)訓練

午前中の「あなたにもできる防災ボランティア」の講演会に引き続き、午後は、調布消防署員による起震車体験、国士舘大学防災・救急救助総合研究所の講師による心肺蘇生訓練を実施しました。今年は、より多くの保護者や地域の方にも参加してほしい、という思いから、6年生の児童にも参加を呼びかけ、親子一緒に体験活動ができるようにしました。

中でも、あまり機会のない起震車体験は、参加者の関心が高く、起震車到着と同時に、体験希望者が多く集まりました。未経験の大きな揺れを実感しながら、地震の時にすべきこと、自分の身の守り方を学ぶことができ、防災・減災の意識を高めることができました。



体育館で行った心肺蘇生訓練では、一人1体ずつの簡易心肺蘇生訓練用人形を使って、一人一人がしっかりと練習をすることができました。数多くの現場でのレスキューを経験している講師のお話は、訓練を受ける人たちにとってよい刺激となりました。緊張感を保ちながらの訓練は、有事の際に慌てず行動することの大切さを感じさせてくれるものでした。災害時には、地域での支え合いと日頃の備えが大切です。今後も多くの人で災害時の行動を学び、助け合っていけるようになりたいです。

3-3 第三小学校

◆ 「命」の授業

「グラ、グラ、グラ！さあ、どうする？」 — 命が大事 命の守り方を考える —

第1学年

「学校にいるときに地震が起きたら、どうしたらいいでしょうか。」という問いに「机の下にもぐる！」「防災頭巾をかぶる！」と元気に答える子どもたち。その上で、ガラスが割れると危ないので軍手をすること、地震後に火事が起こることもあるので、マスクをすることを担任が確認し、実際に身に付けてみました。教室にいる時だけではありません。廊下や校庭にいる時も想定し、家には家族と話し合っておくことをおさえました。



◆ 保護者・地域への啓発

「災害が起きたとき、あなたができること」

講師 調布消防署員



「災害が起きたとき、救急車の数が絶対的に足りなくなります。」「要請のあった現場にたどり着くことは、かなり厳しい状況になります。」消防署員の話聞いていた参加者がぐっと自分事で考えるきっかけになる言葉でした。そんな事態になったとき、実際に「私たちができることは何か」ということをお話しくださいました。

「三角巾」を用いてできることについて実演を通して応急処置法を学びました。止血をするとき、腕を固定するとき等、どのように三角巾を使えばよいのかを教えてくださいました。

講演を通して、自分を守ること【自助】、それができたら近くの人を守ること【共助】を意識して行動してほしいという熱いメッセージで会が閉じられました。

3-4 八雲台小学校

◆ 「命」の授業

あなたならその時どうする？ 一命を守る つなぐために考えるー

第6学年

東日本大震災を題材に、被災時どのような生活をしていたのか、また、日頃からどのような備えをするべきなのかを話し合いました。東日本大震災の被害を確認にした際、児童たちは、「こんなに被害があったんだ」と驚いていました。また、日頃備える道具についての話し合いでは、「水」「非常食」「電池」等のグループが多く出ました。「スニーカー」「毛布」「おむつ」等は必要だと感じるグループは少なく、どんな物が必要なのか深く考えようとする様子が見られました。今回の授業を通して、児童たちは、防災に関して関心を高め、被災が起きても対応できるように被災袋の準備の大切さを深く感じることができました。



◆ 保護者・地域への啓発

「被災者が伝える避難所運営」ー東日本大震災を経験してー

八雲台小学校・第七中学校

講師 武山 ひかる 氏

東松島市学生震災ガイド TTT 3.11 東京福祉大学1年

東日本大震災を小学校4年生の時に体験をされた武山ひかるさんによる講話がありました。震災時の子ども達の様子や被災状況や災害時に教師・保護者・大人がどのように子どものケアができるかなどをご自身が感じことや体験談を多く交えた話をしていただき、多くの保護者・教員が学ぶ機会となりました。被災時、友人関係が崩れたり、子ども達の精神面が大きく変化したりすることを周りの大人が気付いてあげることが大切だということを学びました。今回の講話は、子どもの身近で関わることが多い保護者や教員にとって、被災時の子どもの対応方法のポイントを学ぶことができ、とても貴重な講話となりました。



3-5 富士見台小学校

◆ 「命」の授業

自分たちでできる、けがの手当を学ぼう

第5学年

5年生は、1995年に起きた阪神淡路大震災の被害の様子やけがの人数を知り、都市型災害について学習しました。また、30年以内に70%の確率で起こると言われている首都直下地震では、被害がさらに大きくなり、けが人に対して救助者が圧倒的に足りなくなるであろうという想定を知る中で、自分たちでけがの手当をする大切さに気付くことができました。

授業後半では、三角巾を用いた手の被覆法や腕の吊り方を、ペアになり実際に体験しました。三角巾の端を合わせたり何度も折り込んだりすることの難しさを感じながらも、非常時の応急手当の仕方を意欲的に学ぶことができました。



◆ 保護者・地域への啓発

「大震災から命を守る備え」—自分の身は自分で守る—

講師 宮崎 賢哉 氏

災害支援・防災教育コーディネーター／社会福祉士 一般社団法人防災教育普及協会 事務局長

防災教育の重要性について保護者の目線に立った講話でした。初めに東日本大震災の映像と被災者のコメントを合わせて紹介していただき、自然災害の恐ろしさと備えの必要性を改めて痛感させられました。防災教育は地震だけでなく、交通事故など日常に潜む怪我や事故についても予防していくことにつながるのとことでした。様々な危険をなくしていくために家庭や地域で話題にすることが必要であり、その際、話の中で子供に考えさせる機会をつくることも防災教育の一つであることを教えていただきました。また、いざという時の行動は経験に基づくということ、ゲームや錯覚テストを織り交ぜて説明していただきました。防災教育は「生きる力、生きる勇気を学習者に身に付けるものである」というお言葉が心に残りました。



3-6 滝坂小学校

◆ 「命」の授業

調布消防署、地域消防分団による防災教室

全学年

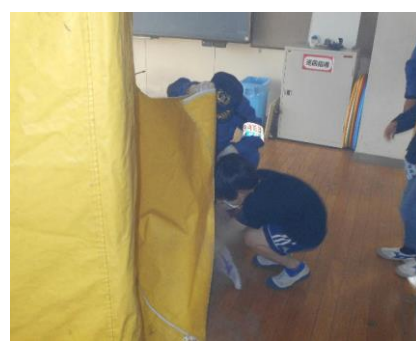
今年度は、調布消防署の方6名，消防第12分団，第13分団の12名をお招きし，各学年で防災教室を行いました。消防や防災に関する実際のものに触れる貴重な体験となりました。



1年 消防車乗車体験



2年 学校消防設備探検



3年 煙体験



4年 初期消火訓練



5年 搬送訓練



6年 起震車体験

◆ 保護者・地域への啓発

防災に関する命の授業と防災親子ワークショップ

全学級

3校時は以下の内容で保護者と一緒に学習に取り組みました。



〈低学年・わかくさ学級〉

防災頭巾のかぶり方，紙食器，スリッパの作り方



〈中学年〉

避難袋に何を入れるか，災害時に取るべき行動



〈高学年〉

避難所での生活の仕方，三角巾の使い方

3-7 深大寺小学校

◆ 「命」の授業

震災が起こったら！ ～本当に必要なものは～

第2学年

震災等、災害が発生したとき、どんなものが必要になるか、話し合いを行いました。

必要なものは何か、一人一人が考えたあと、グループで話し合い、学級全体で共有しました。必要なものとして、お金、食べ物、水、おもちゃ等々が挙げられました。本当に必要なもの、なぜそれが必要になるのかも話し合いました。その後、「東京防災」をもとに、基本的な持ち出し品について確かめ、家庭においても再度確認するようにしました。実際に体験したことがない児童にとって、なかなかイメージがわからない部分もありました。低学年のうちから『電気が止まる』『コンビニに商品がない』『水が止まる』『電話が使えない』等、ライフラインが断絶する可能性も含めて指導を行いました。



◆ 保護者・地域への啓発

「子供たちの命を救うために」

講師 調布消防署員

調布消防署員による、消火器訓練と煙体験、「3.11を忘れない」（消防署員の東日本大震災体験）を実施しました。様々な災害に対して基本的な動き方、災害が起こった時にどんな行動をするべきかを学びました。

家庭科室の準備室を使い、煙体験ハウスを作りました。体験した児童からは、「前が見えなくて怖かった。」「うまく歩くことができなかった。」といった感想が出ました。

「3.11を忘れない」では、実際に東日本大震災に赴いた消防隊員から、体験談を伺うことができました。生死の分かれ目、ちょっとした行動で、命を落としてしまったり、逆に助かったりと、普段の避難訓練の大切さを改めて感じるお話が頂きました。



3-8 上ノ原小学校

◆ 「命」の授業

君の命を守りたい

第6学年

4月27日に行われた調布市防災教育の日では、調布消防署の方をゲストティーチャーにお招きしてお話をうかがいました。実際に被災された方々へのアンケートをもとに、「災害時にあったらよかったもの」について確認しました。そして、「110番のかけ方」についてのシミュレーションを行い、消火器の使い方を訓練しました。子どもたちが「火事だー」と大きな声で一斉に叫ぶ様子に、「大きな声で知らせることは、とても大事だ。声を出すことはなかなかできない。」と、お褒めの言葉を頂きました。また発災時には、まず、自分の安全を確保することの大切さについて実践的に学ぶことができました。



◆ 保護者・地域への啓発

地域防災 災害発生時の心得

神代中学校・上ノ原小学校

講師 調布消防署員

今年度も、上ノ原小学校・神代中学校の共催で地域防災に関わる講話を調布消防署深大寺出張所の方を講師としてお招きし、開催しました。

この地域での災害想定の大危険度や、危険が考えられる場所などのお話を聞き、特に急傾斜地崩落について注意喚起を受けました。また、「自助」についてのお話では、3日間の救援が来るまでの食料等の備え、特に飲料水の備えを各家庭でした方が良いとのことでした。

一人が1日生活するためには水3リットルが必要になるので、4人家族3日間だと36リットルを確保しようとのことのお話でした。話の折々に、スーパーレスキュー隊員としての経験談も織り交ぜたお話で、日頃から「今災害が起こったらこう行動する」という思考を大切に、という思いが強く伝わってきました。



3-9 石原小学校

◆ 「命」の授業

地震が起きたらどうするの？

第1学年

初めに命の大切さを確認し、大きな地震が起きた時、学校での行動の仕方についてクイズ形式にして学習を行いました。そこで、「教室」「校庭」「廊下」「体育館」「トイレ」など学校にいたときや家にいたときに大地震が起きたら、どのような行動をとったらよいのかを考えました。「机の下にもぐる」「頭を守る」「真ん中にあつまる」「扉を開ける」など自分の命は自分で守るということを確認しました。最後に、「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない、ちかづかない、おちてこない、たおれてこない」という避難するときの合言葉と机の下に実際にもぐり、頭を守るということを再確認しました。



◆ 保護者・地域への啓発

「家庭で備える, 地域で備える, わたしたちの防災」

講師 月ヶ瀬 恭子 氏

国土舘大学 防災・救急救助総合研究所

人が生きていくためには、「食う」「寝る」「出す」が不可欠です。その視点から家庭で備えたい視点について学びました。「寝る」では、家具等を固定することが大事であり、置き方等を工夫すること。「出す」では、「下水道」が壊れていないか確認をし、壊れている場合は、トイレに水を流してはいけません。水を使わない災害用トイレセットを用意することが大切である。使い方は、①便器にポリ袋をかぶせる。②ポリ袋の上から携帯トイレをかぶせる。③使い終わったら携帯トイレだけを取り出す。④空気を抜いて、しばる。⑤においがもれないように、しまう。「食う」では、一週間分の水を用意する、また、冷蔵庫の中のものから食べ、次に、普段食べているものを食べ、最後に非常食を食べるという順番を心掛けることが大切です。あなたとあなたの大切な人の笑顔を守るために、大事なことは、自分が生き残るために何が必要か、自分で考え行動することです。



3-10 若葉小学校

◆ 「命」の授業

防災倉庫の中には何が必要だろうか？

第3学年

子供たちは、大きな災害が発生したら学校は避難所になることを知り、学校に防災用の倉庫があることを学びました。その後、防災倉庫に必要なものについて話し合いました。

子供たちからは、布団、飲み物、食べ物、ストーブなどの考えが出されました。その後、実際に入っているものを写真（水、簡易トイレ、トイレットペーパーなど）で確認しました。終わりに家庭で用意しておいた方がいいものについて話し合いをしました。

また、6年生は、体育館で「災害発生時に役立つ知恵や工夫を知ろう」をテーマに、避難所で役立つ工夫を知り、いざというときのための意識を高めることができました。



クラスごとに体験しよう

- ①暖のとり方
- ②ロープの結び方
- ③水の運び方

◆ 保護者・地域への啓発

応急手当法・アルファ米の炊きだし体験

講師 地域の皆様

地域の方にご協力いただき、三角巾などの応急手当法とアルファ米の炊き出しを実施しました。防災全般の関心を高めることがねらいでした。

体験した保護者からは、「アルファ米はおいしい」「三角巾は、いざという時に役に立つ」といった感想が聞かれました。

また、午後には教職員が仮設トイレ設営の訓練をしました。



3-11 緑ヶ丘小学校

◆ 「命」の授業

災害から身を守ること、災害への備え, 命の大切さについて

各学年発達段階に応じた授業を行った。「さいがいから みをまもろう」(1年), 「防災リュックをつくろう」(2年), 「大地震にそなえよう」(3年), 「命をまもる防災」(4年), 「応急手当の仕方を知ろう」(5年), 「こんなときどうする?(災害対応)」(6年)という内容であった。どの学年も多くの保護者・地域の方々が参観する中, 授業が展開された。

◆ 保護者・地域への啓発

「災害時の食を考える」～保存食と普段の食材活用術～

講師 鈴木 佳世子 氏

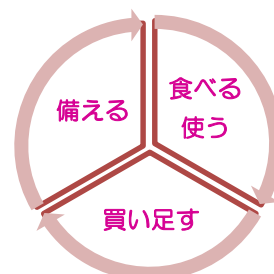
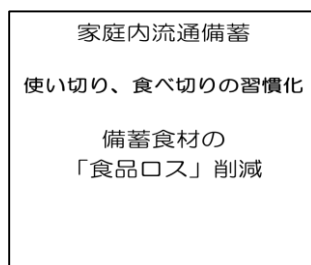
一般社団法人危機管理教育研究所 防災クッキングアドバイザー

防災クッキングアドバイザーの鈴木佳世子氏を講師に迎え, 「災害時の食を考える」をテーマにお話を伺いました。

大規模災害時のライフラインの被害状況や, 交通機能障害による流通が機能しないことを受け, 在宅で避難生活をする際の対策をお話頂きました。在宅避難生活では, 2次災害の予防, ライフラインの確保, トイレ対策の重要性を学びました。

食料・飲料の備蓄については, ①冷蔵, 冷凍品の入った冷蔵庫は最大の備蓄庫, ②常備保存品としていつもの食材を少し多めに備える, ③長期保存品は最低3日分を用意, といった具体的な備えの方法を学ぶことができました。

さらに, 無駄のない備蓄を心掛けるために使い切り, 食べきりの習慣を身につけること。備蓄食材の「食品ロス」の削減を心掛けることについてもお話いただき, 「食品ロス」という観点をもって, 備蓄食材と普段の食材を活用し準備する方法を学ぶ機会となりました。



3-12 染地小学校

◆ 「命」の授業

こんなときキミならどうする

第2学年

学校内の教室、廊下、体育館、校庭など様々な場所や状況に応じて、自分の身の安全を守る方法を確認しました。その後は、校内だけではなく自宅や特別な場所（デパートや海岸）にいたときはどうするかを子ども達で考え話し合いました。タブレットを使い、アニメーションでクイズ形式にしたために、子ども達は一つ一つの状況を理解し、積極的に答えを考えることができました。



◆ 保護者・地域への啓発

HUGー避難所運営訓練・地域防災図上演習ー

講師 石田 真実 氏

NPO法人かながわ311ネットワーク 防災教育事業担当理事

昨年度に引き続き「HUG」という静岡県発祥のシミュレーションゲームに取り組みました。教職員、市職員、地域の方が50人ほど参加し、混成グループを作りました。染地小学校が避難所になったという想定でゲームをすすめていきます。読み上げ係が避難者カードとイベントカードを次々に読み上げます。避難者の属性を考慮して、体育館や教室の適当と思われる場所に配置していきます。刻々と起こるトラブルや物資の搬入などに対応していきました。

講師からは、神戸、東北、熊本など近年の災害の避難所の様子が紹介されました。日頃から心構えをしておくことの大切さを痛感させられました。



3-13 北ノ台小学校

◆ 「命」の授業

「避難の仕方を考えよう」

第4学年

1週間の中で、多くの時間を過ごしている学校。その学校にいる際に大きな地震が起こった場合、どのように避難したらよいのか？と学級で考えました。今回は、新しく入学してきた1年生に分かりやすく教えるためにはどうしたらよいのか？という条件でクラスの児童に投げかけ、プログラミング教育を踏まえた学習を行いました。子供たちからは、「指示する内容が多くなると1年生はわからなくなってしまう。」という意見も出て、指示できる項目を「机に隠れる」「放送を聞く」「軍手をする」など8個に厳選して、安全な避難の仕方について話し合いました。子供たちは、付箋を使って、8個の避難指示を入れ替えて順番を考え、グループで話し合い、どの順番が安全に避難することができるのかを考えました。



◆ 保護者・地域への啓発

「今日から始める防災対策～災害で大切な人を守るために今からできること」

講師 菊池 顕太郎 氏

NPO法人 日本防災士会 世田谷支部理事

日本防災士会の菊池顕太郎さんを講師にお招きし、大きな災害が起きたときにどうしたらよいか、具体的にお話いただきました。①1人で3日過ごせる準備をしているか。水は1人1日4リットル必要。現金も用意しておく。②最初に困るのはトイレ。トイレが使えなくなったときの対策をしておく。③最初の3日間が勝負。近隣住民で助け合うことが大事。・・・など多くの具体的な防災対策を教えてください、大変勉強になりました。

最後に「状況は想定を必ず超える。今日からできることを始めよう」という言葉を聞いて、準備の大切さを痛感しました。



3-14 多摩川小学校

◆ 「命」の授業

もしもの時に備えて

第4学年

「自宅にいる時にもし大きな地震が起こったら、まず何をしますか。」4年生の子どもたちは、これまでの経験などを振り返りながら、もしもの時に自分が最初にとるべき行動を考え、話し合いました。テーブルの下に身を隠す、火を消す、など、たくさんの意見が出されました。どれも身を守るためには大切なことです。しかし、災害時、まず行うことは「落ち着くこと」です。災害はいつどこでどんな状況で起こるかわかりません。状況に合わせて冷静に判断することが、命を守るためにはとても重要なのです。「まずは落ち着く。」これを覚えているだけで、もしもの時に自分に言い聞かせて行動できるかもしれません。



その後、給食準備中の教室、理科室、通学路など、普段なじみのある場所に潜む危険をグループで話し合いました。日頃から危険箇所を探したり、大きな地震が起きたらどうするかを想定したりすることで、「もしもの時に備える」大切さについて考えることができました。

◆ 保護者・地域への啓発

「被災地に学ぶ、家庭でできる備え ～食とトイレの話～」

講師 鈴木 光 氏

一般社団法人減災ラボ 代表理事

保護者・地域の方へ向けて防災に関する講演会を実施しました。講師の鈴木光さんより被災地での経験を伺いながら、備蓄やトイレの話など、生活する上で欠かすことのできないものを家庭で備える方法についてお話いただきました。



当日は、全校での避難訓練・引き渡し訓練行った後、午後は地域の方と避難所設営訓練や防災まち歩きを行いました。まち歩きでは危険箇所を確認することに加え、地域の方と学校が協力し合いながら地域の防災・減災の取り組みを行うことの重要性を再確認し、意識の向上へつながりました。

